Vol26, November,2017

NPO 法人　日本小児がん看護学会

Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing
－ JSPON －
News Letter　Vol.26

秋も深まり、紅葉の美しい季節となりました。四国で行われる初の日本小児がん看護学会学術集会が近づいて参りました。愛媛はたくさんの観光スポットの他、名産品もあります。学会とともに充実した時間を過ごしてください。皆さまと学術集会場でお会いできることを楽しみにしております。

第 15 回日本小児がん看護学会学術集会のご案内

第 15 回日本小児がん看護学会学術集会を、第 59 回日本小児血液・がん学会、第 22 回がんの子どもを守る会公開シンポジウムとともに、愛媛県松山市ひめぎんホールで開催いたします。

教育講演では「小児がん経験者の長期フォローアップにおいて看護師に期待する役割」について、愛媛県立中央病院の石田也寸志先生にご講演いただきます。海外招聘講演には、Boston Children's Hospital & Dana Faber Cancer Institute で Pediatric Hematology/Oncology Nurse Educator としてご活躍されている Colleen Nixon 先生をお招きし、小児のオンコロジーナーシングの専門性と教育についてご講演いただきます。

また、11 月 9 日（木）に開催される合同特別講演には、副島賢和先生をお招きし、小児がんの子どもの教育の必要性と笑いの力についてお話しいただきます。看護シンポジウムでは、小児がん拠点病院と連携病院のネットワーク活動の取り組みを取り上げ、ケアの些細な疑問を解決し、最善のケアについて学びあう場にしてまいります。また、ミニワークショップでは、骨髄移植を受けた子どもをもつご家族の体験を共有し、家族支援のあり方と看護師の役割について家族の視点から考えていきます。

医師との合同シンポジウムでは、クリニクラウン、子どもホスピス、レスパイトケアなど、子どもと家族が笑顔になれる「仲間・時間・空間」づくりの活動をご紹介いただきます。そして、実践・教育・研究のレベルアップを目的とした学会委員会主催のセミナーは､「きょうだい支援｣｢小児看護における End-of-Life Care」「小児がん看護の専門教育制度に関する提案」「みんなで SIOP2018 に参加しよう！」の 4 つが企画されています。今年度は、三団体の枠を超えた合同プログラムとして、パネルディスカッション「小児緩和ケアにおける医師と看護師の協働｣､多職種シンポジウム「小児がん患者の治療中の QOL の向上を目指して｣、公開シンポジウム「思春期・若年成人（AYA 世代）期発症のがん医療環境を考える」などの合同プログラムを用意いたしました。また、一般演題の発表には、口演 55 演題、ポスター11 演題（合計 66 演題）の登録をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

本学術集会が、日々の実践・教育・研究活動を皆様と一緒に共に振り返り、子どもと家族とともに寄り添い歩み続けられる新たな看護者の役割についての活発な意見交換の場となることを期待し、多数のみなさまのご参加をお待ち申し上げております。

第 15 回日本小児がん看護学会学術集会長　薬師神裕子
（愛媛大学大学院医学系研究科看護学専攻）

〔テーマ〕　**「子どもと家族の歩む道をともに拓（ひら）く」**

- 会　期：2017 年 11 月 9 日(木)～11 月 11 日(土)
- 会　場：ひめぎんホール（愛媛県県民文化会館）
- HP アドレス：http://www.c-linkage.co.jp/jspho-jspon2017/index.html

〔プログラム〕**公開講演**（11 月 11 日）みんな地球に生きるひと～子どもの未来を考える～　アグネス・チャン氏
合同特別講演：病気の子どもになぜ教育が必要なの？ 涙も笑いも、力になる
海外招聘講演：「The Personal & Professional gains of obtaining pediatric hematology/oncology nursing certification」
教育講演：　「小児がん経験者の長期フォローアップにおいて看護師に期待する役割」
合同シンポジウム：「笑顔のたねパートⅡ」
ケア検討委員会ワークショップ：きょうだい支援について
学術検討・国際交流委員会セミナー：みんなで SIOP2018 へ参加しよう！
教育委員会セミナー：小児看護における End-of-Life Care
3 団体合同公開シンポジウム：思春期・若年成人（AYA 世代）期発症の がん医療環境を考える
パネルディスカッション：小児緩和ケアにおける医師と看護師の協働
特別講演：　「病気のこどもになぜ教育が必要なの？～涙も笑いも、力になる～」
ミニワークショップ　：　「骨髄移植を受けた子どもをもつ家族への支援」
3 団体合同公開ワークショップ：「小児がんおよび AYA がん患者の長期フォローアップの現状と展望
―長期フォローアップ体制整備事業の開始を受けてー」

第１４回日本小児がん看護研修会の報告

8 月 26 日(土)に、第 14 回小児がん看護研修会「学童・思春期に死を迎える子どもと家族の看護」を国立成育医療研究センター講堂で開催いたしました。事前申し込み 72 名、当日 13 名、計 85 名の参加がありました。以下は参加者の感想です。

千葉大学医学部附属病院小児看護専門看護師　渡邉朋

午前中は 2 名の先生の講演がありました。静岡県立静岡がんセンター臨床心理士の枷場先生の講演では、思春期にがんと診断され数年の闘病を経て亡くなった 2 事例を紹介して頂きました。病気になったことで沢山の喪失を味わってきた患者さんが、亡くなりゆく時に抱える孤独がどんなに大きいものか、そのような思春期患者にとってピアサポートとのつながりや他者との共有がとても大切であることが語られました。私達は表出が少ない思春期患者を前にすると「聴く」つもりが「訊く（問いただすように訊ねる）」になりがちですが、語りが少なくても「察する」ことが大切な支援だと再認識する機会となりました。東京都立小児総合医療センター医師の湯坐先生の講演では、病気説明から治療を経て亡くなりゆく時期までの長い期間、医師として誠実に子どもと向き合ってきた様子を伝えて頂きました。また、予後告知については、医師も不慣れであり、医師だけでなくチームでサポートしていく大切さを強調されていました。親や医療者は「死にゆくことを本人にどう伝えたら良いか」に悩みがちですが、死ぬことを伝えることより、今をどう生きるかサポートすることの大切さに気付かされました。

午後のグループワークでは、学童・思春期に死を迎える子どもと家族の看護において日頃困難と感じていること、明日からできそうな事、続けていくと良い事をワールドカフェ方式で語り合いました。

詳細と話し合いの結果を本学会ホームページ「更新情報」で公開しております。ぜひ、ご覧ください。

http://jspon.sakura.ne.jp

第３期がん対策推進基本計画が決定！

10 月 24 日、政府は 2017～2022 年度がん対策の指針となる「第３期がん対策推進基本計画」を閣議決定しました。今期は「がんの予防」を強く打ち出し、「がん医療の充実」「がんとの共生」の三つの柱からなります。 長く議論されていた喫煙に関する議論は、2020 年までに「飲食店や職場、家庭など全ての場所での受動喫煙をゼロ」とする新目標を盛り込むことで一致しました。小児がんはライフステージにあったがんとの共生として AYA 世代、フォローアップが重点課題となります。またそれらを支える人材育成も焦点となります。これを受けて次回の学会３日目には、小児がん看護の専門性について政策委員会から提案をしますので、是非ご参加ください。　（政策委員会/井上玲子）

SIOP2017＆病院研修

今回の病院研修の参加者は 5 名で、National Children's Hospital と Montgomery Hospice に行きました。病院（10/10）では、スウェーデンの臨床看護師 5 名とカナダの看護大学の教員 1 名と一緒に研修を受けました。今回は、病院の研究部門での研究に関する発表とディスカッションが中心でした。「小児がん治療の副作用の評価に患者自身の評価を用いること」や「子どもによる病院評価」「骨髄移植を受ける小児がんの子どもと家族のそれぞれの体験と思い」「重篤な子どもの“良い親”でいることとは」などの研究に関する報告に加え、緩和ケアチームや移植を受けた子どものサバイバープログラムについて紹介して頂きました。

Montgomery Hospice（10/11）は、小児から大人までを対象にしたホスピスであり、在宅でのケアを中心にグループホームやナーシングホームでのケアも提供していました。全てのケアにおいて、『LIFE』を重視し、常に多職種と連携し、看護師がリーダーシップをとっていました。アメリカでの「ホスピス」は、施設ではなくケアシステムを意味しており、その 1 つとして Casey House がありました。Casey House は、14 歳以上の人が利用できる施設でベッド数は 14 床でした。全てが個室で、家族と一緒に過ごせるような部屋になっていました。（病院見学の詳細は、学会誌で報告させていただく予定です）

SIOP2017 の Educational Day は、全てのプログラムを supportive care（支持療法）チームとの合同企画で、「痛みの管理」「化学療法による吐き気と嘔吐」「化学療法による倦怠感」「小児急性患者重症度判定スコア（PEWS）」など、症状に特化したものでした。来年の京都での Educational Day では、症状マネジメント、意思決定、家族との協働などについてのテーマを検討中です。SIOP2017 の看護部門でも、National Children's Hospital での研究と同様に、子ども自身や家族の意見を正確に把握するためにはどのような工夫が必要なのか、そのためのツール開発などに関する研究が複数発表されていました。また、複数の国での協働研究や SIOP の看護部門がサポートしている発展途上国での看護に関する報告などもありました。日本からの発表は全てポスターでした。来年の京都の学会では、是非多くの日本の看護を世界に発信できると良いと思います。　（国際交流委員会　小川純子）

CNS のまめ知識

今回は、小児がん医療に大きくかかわる造血細胞移植コーディネーターについてご説明します。現在、看護師資格をもちながら造血細胞移植コーディネーターとして臨床現場で活躍する人も多くなりました。ケアとキュアの視点から、造血細胞移植を受ける患児と家族をサポートできることは大切なことです。

【造血細胞移植コーディネーターの認定制度】

1．造血細胞移植の特徴

造血細胞移植は白血病などの難治性造血器疾患を主な対象として行われ、大量化学療法、大量放射線療法を用いるために治療関連死亡やQOL低下を招く可能性の高い過酷な治療です。そして、造血細胞移植を行うためには造血細胞を提供する健康な第三者が必要になり、HLA 型の適合するきょうだいがドナーとしてしばしば選出されます。患児の救命のためとはいえ、幼いきょうだいがドナーとして入院、手術をする事に対し、倫理的葛藤を生じることが多くあります。

2．造血細胞移植コーディネーター（Hematopoietic Cell Transplant Coordinator：HCTC）

HCTC は、患児が移植適応と判断された時から移植後に至るまで、患児を含む家族全体を継続的に支援します。とくにドナー候補となるきょうだいのケアにあたり、移植・提供に関する家族の意思決定を支援することは、患者とドナー、双方の幸福、家族全体の幸福を目指すための重要な役割です。

適正な移植が行われる環境を整備するため、平成 25 年度から開始された厚生労働省「造血幹細胞移植医療体制整備事業」では HCTC の育成に取り組んでいます。日本造血細胞移植学会では平成 28 年度から新たな移植施設認定制度を導入し、その認定要件に HCTC の配置が加えられました（現時点では暫定要件）。小児の造血細胞移植現場においては、HCTC、またはチャイルドライフスペシャリスト等が患者、ドナーを担当する必要があります。HCTC は学会によってその資格が付与され、現在、学会が認定した HCTC は全国で 45 名しかおりませんが、今後、普及が望まれる職種であり、HCTC の多くは看護師や MSW 等の資格を活かして活動しています。

3．認定 HCTC 資格取得の方法

認定資格を得るためには、下記の表の通り HCTC としての経験と規定の講習を修了する必要があります。小児の移植件数は少ないため、小児に限った移植を行う施設においては「小児移植認定 HCTC」として認定要件が別途定められています。また平成 29 年度からは「認定 HCTC」に加え、さらに経験と研鑽を積んだ「専門 HCTC」の制度が追加されます。詳しくは学会ホームページをご参考ください。

（家族支援専門看護師/造血細胞移植コーディネーター/M.S）

	認定HCTC	小児移植認定HCTC
コーディネート件数		
患者	15件以上	8件以上
ドナー	15件以上 （うち血縁ドナー5件以上）	8件以上 （うち同胞ドナー3件以上）
経験年数	2年以上	
研修	認定講習Ⅰ・Ⅱの修了	
審査方法	書類審査・口答試験・筆記試験	

表：HCTC の認定取得要件（抜粋）

https://www.jshct.com/organization/iin_zouketsu.shtml（日本造血細胞移植学会 HCTC 委員会）

ここ最近の気になること

ここ数年、「災害」がより身近で日常のものとなりました。みなさんは、どのように入院中や外来でご指導されているでしょうか…災害はまさにいつやってくるかわからない。そして、だれにでも降りかかってくる予想のつかないものです。災害は起きてから準備するのではなく、起きる前からの「備え」が重要です。小児がんで治療を受けているお子さんは、入院中であったり、外来で継続治療を行ったりと療養状況が多岐にわたります。入院中は医療者が管理できますが、外来は家族の十分な管理とその子のセルフケア能力によってどれだけできるかです。

〇内服中の抗がん剤が手元になくなりました。どうしたらいいでしょうか？
〇今、白血球が下がっているといわれ、自宅で経過観察中なのですが、病院に行きたくてもいけません。
　どうしたらいいでしょうか。
〇避難所に行かなければならないのですが、治療中なので、感染が心配です、どうしたらいいでしょうか。

など、身近なところから考えれば、普段は何気ないことが、急に苦難なことに変わります。平常時から何かあった時のために対策を考えていくことが重要です！

（筑波大学附属病院小児看護専門看護師　田村恵美）

Vol26, November,2017

おしらせ

小児がん看護学会誌編集委員会からのご案内

＜第 15 回学術集会総会後に 研究奨励賞授与式＞

平成 26 年度に始まりました研究奨励賞の第 4 回の受賞者が決定しました。研究奨励賞は、過去 3 年分の学会誌に掲載された論文から、毎年、選考委員会による厳正な審査と理事会での承認を経て決定されます。研究奨励賞は学術集会総会後に授与式が行われますので、皆様ふるってご参加ください。総会は 11 月 10 日(金)16:10～17:00 第 5 会場(ひめぎんホール本館)で行われます。

＜研究奨励賞第 3 回受賞者のお知らせ＞

平成 28 年度の受賞者は以下 6 名で、第 14 回学術集会総会後に上別府圭子選考委員長より授与者と授与理由が発表され、内田雅代理事長より賞状および副賞が授与されました。おめでとうございます。

◎斉藤正恵殿、黒田光恵殿、小林京子殿、玉村尚子殿、横山由美殿(Vol.10, 14-22, 2015)「終末期にある小児がん病児の同胞への支援の検討」

◎鈴木さと美殿 (Vol.11, 17-28, 2016)「幼児・学童期に脳腫瘍を発症した思春期患者の学校生活と親の思い・関わり」

＜学会事務局より＞

日本小児がん看護学会事務局は、平成 29 年 1 月から下記に移転いたしました。また、会員管理事務局は、平成 28 年度より下記に移転（外部委託）しております。併せてお知らせいたします。

■学会事務局■

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻
家族看護学分野内
FAX: 03-5841-3694　E-mail: office@jspon.com

■会員管理事務局■

〒170-0002
東京都豊島区巣鴨 1-24-1 第 2 ユニオンビル 4F
㈱ガリレオ　FAX: 03-5981-9852

会費納入のお願い

日本小児がん看護学会の年度は、１月～１２月となっております。平成２９年度の振込みがお済みでない方は、お早目にお願いいたします。

［会費振込み先］
郵便振替口座：00590-9-79689
名称：特定非営利活動法人　日本小児がん看護学会

日本小児がん看護学会ニュースレター担当
東海大学健康科学部　井上玲子
筑波大学附属病院　田村恵美

［連絡先］ 〒259-1193　神奈川県伊勢原市下糟屋 143
東海大学健康科学部看護学科内
E-mail：rinoue@is.icc.u-tokai.ac.jp

第 16 回日本小児がん看護学会学術集会

第 16 回日本小児がん看護学会学術集会を、日本小児血液・がん学会、がんの子どもを守る会とともに、2018 年 11 月 15 日(木)～16 日(金)に、京都ロームシアター/京都市勧業会館みやこめっせで開催致します。学術集会のテーマは「子どもらしさ家族らしさをささえる」です。困難な状況の中でもその子どもらしく、その家族らしくいられることを支えるために何ができるのか、皆様と考えたいと思います。紅葉の美しい京都に是非お越しください。

第 16 回日本小児がん看護学会学術集会長
京都橘大学看護学部　堀妙子

【SIOP2018 のお誘い】

2018 年 11 月 16 日(金)から 19 日(月)に、京都国際会館にて、国際小児腫瘍学会(SIOP2018)が開催されます。16 日が educational day、17 日～19 日が学会発表になります。抄録の登録は、2018 年 3 月～4 月頃の予定です。詳細が決まり次第、日本小児がん看護学会の HP でお知らせします。
http://siop-online.org/event/siop-2018/

国際交流委員会　小川純子

平成 29 年度 日本小児がん看護学会　組織・体制

理事・監事

理事長：上別府圭子
副理事長：塩飽　仁　富岡晶子
理事：石川福江　井上玲子　内田雅代　小川純子　小原美江　上別府圭子　小林京子　込山洋美　佐藤伊織　塩飽　仁　竹之内直子　田村恵美　富岡晶子　平田美佳
監事：野中淳子　森美智子

組織体制　　下線：委員長

将来計画委員会：塩飽　仁　井上玲子　内田雅代　上別府圭子　竹之内直子　田村恵美　富岡晶子
教育委員会：竹之内直子　荒井由美子　石川福江　小川純子　込山洋美　柴田映子
編集委員会：小林京子　岩崎美和　佐藤伊織　東樹京子　古谷佳由理　前田留美
国際交流委員会：小川純子　河上智香　平田美佳　山下早苗
ケア検討委員会：小原美江　内田雅代 竹之内直子 平田美佳
学術検討委員会：佐藤伊織　小原美江　上別府圭子　河俣あゆみ　副島尭史
広報委員会：塩飽　仁　井上玲子　入江　亘　田村恵美
研究助成委員会：塩飽　仁　田村恵美
政策委員会：井上玲子　小林京子　川勝和子　柴田映子　前田留美
会計：富岡晶子　石川福江
庶務：佐藤伊織
事務局：副島尭史　佐藤伊織
合同学会ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ委員：内田雅代　小川純子　小原美江　上別府圭子　富岡晶子